

## 【活用にあって】

問1：見出しは、記事で一番大事なことをズバリと言います。見出しに入る言葉を考えることで、本文のキーワードをつかむことができます。文章の内容を的確に捉える力を付けるには、見出しを考えるという活動が有効です。見出しを隠した記事の本文を読んで、自分なりの見出しを考えてみてください。新聞社では記事を書く担当と見出しを付ける担当は違う人です。それくらい見出しを重要だと考えています。

問5：読む力を付けるには、より多く活字に触れることです。この類義語の違いをつかむ語感に関する問題などは、日ごろどれだけ本や新聞を読んでいるかが鍵を握ります。

### 解答例

問1：脱皮

問2：インド洋や大西洋

300～2100メートル

問3：3

問4：イ

問5：ウ

問6：絶食

ダイオウグソクムシは、その後どうなったのでしょうか。  
そんなことも忘れていた2019年11月12日の朝刊に、次の  
ような記事が掲載されました。

残念です…………。

後部の脱皮を終えた直後のダイオウグソクムシと抜け殻（左奥） 11月13日、三重県鳥羽市の鳥羽水族館で（同館提供）



### 鳥羽水族館 世界初の全身脱皮ならず

鳥羽水族館（三重県鳥羽市）は十日、飼育個体では世界初の全身脱皮が期待されていたダイオウグソクムシ「No.23」が同日死んだと発表した。同館で解剖して死因を調べる。残りの飼育数は六匹となった。

この個体は十月十三日、世界五例目となる体の後部の脱皮に成功。同館では三例目の後部脱皮だったが、前部には脱皮の兆候が最後まで確認されなかった。過去の後部脱皮の例でも、脱皮から一カ月ほどで死んでいる。水族館の担当者は「今度こそ、という思いがあったが、非常に残念」と話した。

ダイオウグソクムシはダンゴムシの仲間の深海生物。鳥羽水族館で飼育していた別の個体が五年と四十三日間絶食して話題となった。今回死んだ個体も二〇一五年二月から餌を食べていなかった。

ダイオウグソクムシが死ぬ